

客家の伝統家屋“福建土楼”と、海上の花園“コロンス島”を巡る アモイ4日間

日付	都市	時間	日 程	宿泊地	食事
3/2 (土)		午前 午後 夕刻	成田空港より空路アモイへ 廈門高崎国際空港到着、到着・入国手続 ホテルにチェックイン レストランにて福建料理の夕食 【アモイ 泊】		✕ 機 夕
3/3 (日)		朝 午前 昼 午後 夕刻	ホテルにて朝食 専用車で福建土楼の1つ「華安土楼」観光にご案内 (二宜楼、南陽楼、東陽楼など) 途中、レストランにて客家料理の昼食 観光後、専用車でアモイへ 着後、レストランにて海鮮料理の夕食 【アモイ 泊】		朝 昼 夕
3/4 (月)		朝 午前 昼 午後	ホテルにて朝食 専用車と渡し船でコロンス島の観光にご案内 (日光岩、菽庄花園、ピアノ博物館など) 観光後、レストランにて郷土料理の昼食 ホテルに戻り、自由行動 ◎患者様は市内病院にて人工透析 【アモイ 泊】		朝 昼 ✕
3/5 (火)		朝 午後 夜	ホテルにて朝食 出発まで自由行動 専用車で空港へ 空港にて搭乗・出国手続後、空路帰国の途へ 各地空港到着、入国手続・通関後、解散		朝 ✕ 機

旅行期間

3月2日(土)～3月5日(火)

旅行代金

出発地：東京

238,000円

(2名1室ご利用の場合のお1人様あたり)

◎燃油サーチャージ、空港税について：燃油特別付加料金(燃油サーチャージ)、並びに海外の空港使用税及び国内空港の空港施設使用料、航空保険料、国際観光旅客税は旅行代金に含まれます。今後、燃油サーチャージに増減があった場合でも、旅行代金に変更はございません。

◎成田空港より出発いたします。

◎添乗員は成田空港より、同空港での復路ご到着まで同行いたします。

- 利用予定航空会社：全日空
- 利用予定ホテル：ランガムプレイス廈門 クラス
- 食事条件：朝3回・昼2回・夕3回
- 一人部屋追加代金：36,000円(3泊分)
- 現地透析：1回(アモイ)
- 透析費用：1回約 20,000円
- 最少催行人員：6名
- 査証：中国入国には査証は必要ありませんが、入国時にパスポートの有効期限が6ヶ月以上必要です。
- 渡航情報(危険情報)：中国/今回訪れるアモイには現在危険情報は発出されていません。

【ツアーの見どころ】

●**コロンス島**：アモイ島からは渡し舟に乗って約10分、花の島「コロンス島」は、清朝末期に租界地に定められ、多くの国家が次々に領事館を開設したことから、西洋と東洋の建築が異国情緒を作り出す、独特の景観が形作られ、「万国建築の博物館」とも呼ばれています。コロンス島は音楽の聖地でもあり、音楽にたけた人材を多数輩出し、単位面積あたりのピアノの保有台数は中国一で、「ピアノの島」「音楽の島」とも呼ばれています。島内には多くの公園が造られ、海と風によって育まれた巨石奇岩と相まって、その独特の景観は「海上明珠」、「海上花園」とも呼ばれています。コロンス島とアモイ港を一望できる絶景スポット**日光岩**、1913年に別荘として作られた庭園**菽庄花園**の園内には、四十四の橋と十二の洞穴などがあり、園内には世界的に有名な**ピアノ博物館**があります。

●**アモイ**：中国語では廈門と記されます。福建省南部、九龍江の河口に開けた海浜都市。温暖なリゾート地としても知られています。また、古くから東南アジアとの交易があり、経済特区として発展を続けています。

【ツアーの見どころ】

●**福建土楼**：客家の人々が、安住のために築き上げた要塞のような城壁に囲まれた建築物です。福建省南西部の山岳地帯にあり、円形もしくは長方形の建物で、外側は厚い土壁で作られ内側は木造、3階から5階建てで、約80世帯の家族が生活している住居です。非常に丈夫な作りのため、中には700年前の土楼も存在しています。

●**華安土楼**：2008年に世界遺産に登録された3つの福建土楼群の中でも、その建築美が特徴の土楼群です。土楼の数は3つと少ないですが、そのうちの**二宜楼**は現存する土楼の中で最大の大きさを誇り、1740年に建設され30年の月日を費やして完成した、敷地面積9300㎡、階数は4階で高さは16m、外周は73.4mの土楼です。村の中央にどっしり構えるその姿は圧巻。内部は木造建築になっていたところに、彫刻や壁画が200年前のままの姿で見ることができます。また、世界遺産に指定されている土楼の中で唯一内部を見学できる土楼です。更に土楼の中に作られた土楼博物館もあり、土楼建築を存分に楽しめられます。**南陽楼**は二宜楼より一回り小さい土楼で、現在は各部屋を展示場とした博物館となっています。ここも2階に登ることができ、展示物と同時に建物の詳細な構造を見ることができます。南陽楼の並びにある方形土楼の**東陽楼**は円形土楼とはまた違った趣があります。